

学校教育目標	○生徒が、自ら考えて行動する力を高めます。 ○生徒が、お互いを認め合い学び合う姿勢を大切にします。 ○生徒が、より良い生き方を求めて努力することを支援します。					
	創立 45 周年 児童生徒数: 516 人	学校長 長島 和広	副校長 鬼丸 玲子	2 学期制	一般学級: 15	個別支援学級: 2
学校概要	主な関係校: 緑小・竹山小					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鴨居中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<持続可能な社会の創造に貢献する力> <問題発見・課題解決能力> <言語能力>	鴨居中 竹山小 緑小	○自ら進んで学ぶ児童生徒  ○「問題発見・問題解決の能力を育てる指導法の工夫」をブロック合同授業研究のテーマとし、教科・領域等においてテーマを意識した授業改善に取り組む。(ブロック内での授業研究会の実施) ○児童生徒理解をさらに深めるためにYPアセスメントを活用するなど、個別最適な教育活動につながるよう情報交換を行う。

中期取組目標	○全職員が授業を工夫し、ユニバーサルデザインを意識した分かりやすい授業を展開し、基礎学力の定着を目指します。 ○一人ひとりの良さや思いを認め、多様性を重視した個を大切にできる温かい学校を目指します。 ○生徒・教職員が共に「主体的・対話的で深い学び」を進め、自らのキャリアを創造していく学校を目指します。 ○地域に開かれ、地域の教育力を活用し、共に歩む学校づくりを進めます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	豊かな学力	○教科等で学習指導要領に表された育成を目指す資質・能力を明確に捉え、日々の授業改善を行う。 ○資質・能力を教科横断的に育てるために、研修を重ねる。 ○ICTの活用によって、個に応じた学びと協働的な学びを効果的にを行い、生徒の資質・能力を育てる。
担当	教科主任会	
徳	豊かな心	○道徳を中心として、教科等での道徳教育に日常的に取り組む。 ○平和の大切さ、命の大切さを醸成するために行事等の工夫を続ける。 ○教職員と生徒がお互いに敬意を払い、尊重する風土を大切にする。
担当	学習指導部	
体	健やかな体	○スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを大切に、運動に親しむ態度を育てる。 ○保健体育科、家庭科を中心に望ましい生活習慣や食習慣について学び、身に付けられるようにする。 ○新型コロナウイルス感染症の正しい理解を進め、公衆衛生への意識を育てる。
担当	保健体育科・家庭科	
公開	SDGsへの取組	○生徒会活動を充実させ、学校生活における主権者教育を進める。 ○生徒が17の達成目標を意識し、世の中に働きかける行動ができるよう教育活動の工夫を行う。 ○生徒が学習していることが、世の中とつながっていることを意識させる。
担当	特活指導部	
いじめへの対応		○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、組織的な対応を継続する。 ○いじめ防止にむけて、生徒会や委員会活動を通して、生徒が自分ごととしての発信を喚起する。 ○誰もが安心して過ごせる学校づくりを目指し、生徒が相談しやすい体制を整える。
担当	生活指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		○教育課程を工夫し、時間外勤務を減らすことで、教職員自身がアップデートする時間を確保する。 ○メンターチームを有効活用し、経験の有無に関わらず学び合い、組織経営へ提案ができるようにする。 ○教職員が語り合う場を確保し、ストレスチェック指数を市平均に近づける。
担当	総務部	
特別支援教育		○学校と保護者が連携し、個別の支援計画等を常に見直し、教職員間の情報共有を確実に進行。 ○不登校や長期欠席、集団になじまない生徒の支援のため、特別支援教室の運営を全体で行う。 ○日々の教育活動をユニバーサル・デザインの視点、特別支援教育の視点で取り組む。
担当	特別支援教育推進委員会	
情報教育		○ICT端末を活用し、教職員自身が情報活用能力の向上をはかり、生徒の資質・能力の育成につなげる。 ○教科等でのICT端末の活用とともに生徒の情報リテラシーやデジタルシチズンシップを育てる。 ○指導者用及び学習者用デジタル教科書を活用し、これからの授業づくりを研究する。
担当	教務部	
キャリア教育		○「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の自己調整力を育むことで自律したキャリア形成を支援する。 ○これからの職業教育の充実を目指し、職業講話や職業体験等を体系的に取り組む。 ○より良い人生を形成できるよう、生徒一人ひとりが主体的に進路選択ができるよう支援する。
担当	特活指導部	
地域連携		○学校運営協議会や学校地域コーディネーターと連携を進め、地域に開かれた教育課程を検討する。 ○「スマホ&ケータイ利用の約束づくり」を家庭、地域とともに推進する。 ○地域での生徒の活動支援をするための「ボランティアセンター」の設立を目指す。
担当	学校・家庭・地域連携事業	